

滉陽

九月二十七日～十月二日
第三十七回 滉陽書道展 開催

第 52 号

平成 28 年 12 月 2 日
書道研究 滉陽会

〒524-0037
滋賀県守山市梅田町 1-7
(守山駅西口から
北へ約 100m)
URL: <http://www.kouyoukai-sho.com/>

発行人：中川 翠玲



九月二十七日から十月二日にかけて滋賀県立近代美術館にて第三十七回滉陽書道展を開催致しました。
今年のご来場者は、七日間で八九八名にのぼり、会場は生徒さんの作品をご家族で観に来られる方、熱心に作品を鑑賞くださる方などで大いに賑わいました。
また、十月一日には授賞式を行い、堂々と賞を受ける方々の姿が印象的でした。

授賞された方々にコメントを頂きました



◆滋賀県知事賞を受賞して 青山教室 宮崎恵舟
この度滉陽展に於いて滋賀県知事賞という大きな賞を頂き、嬉しさ以上に身震いするような緊張感を覚えました。賞の名に恥じぬよう今以上一層の努力を続けなければ、と改めて身の引き締まる思いがしております。

今回屏風作品に挑戦させて頂くにあたり、楽しくて数種類の草稿を創ってみたのですが、その中から現在の私にとって一番創意工夫を必要とされる厳しい作品を選んで、勉強の機会を与え叱咤激励して下さった中川先生。なかなか作品が思うように仕上がらず焦る私に、「大丈夫きつと良い作品になるから。」と励まし続けて下さる古川先生。そして、惜しげもなく色々アドバイスを頂いた諸先輩方、添削会の度にへこむ私を励ましてくれた仲間の皆様に改めてお礼申し上げます。有り難うございました。

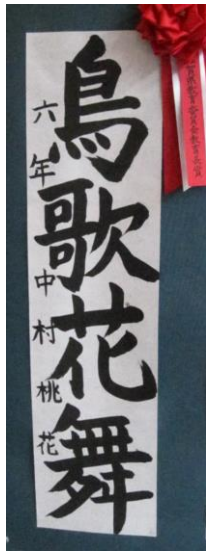
◆滋賀県知事賞を受賞して 城北教室 宮本萌生
今回は「滋賀県知事賞」という大きな賞を頂き、ありがとうございます。今回の受賞で自信がついたと同時に習字を続けてきてよかったと思えました。

私がかここまで成長出来たのは仲間のおかげです。ライバル心をいなくことでさらに自分を追い込むことが出来ました。これからも仲間同士で良い影響を与え合って成長していきたいです。

最後に、丁寧に指導してくださった、宮崎先生に感謝します。



宮崎恵舟



木村香雪



◆滋賀県教育委員会教育長賞を受賞して
守山駅前教室 木村香雪

この度、このような賞をいただき大変光栄です。今回初めて多字数作品に挑みましたが、まず草稿作りの段階で自分の力量を思い知らされ、すっかり意気消沈… 中川先生のご指導がなければここまで仕上がることはなかったと思います。本当にありがとうございます。

まだまだクリアしなければならぬ課題は沢山あります。ただ焦らず、まずは基本となる古典を中心に日頃から修練を積む事を心がけていきたいです。

◆滋賀県教育委員会教育長賞を頂いて
久野部教室 中村桃花

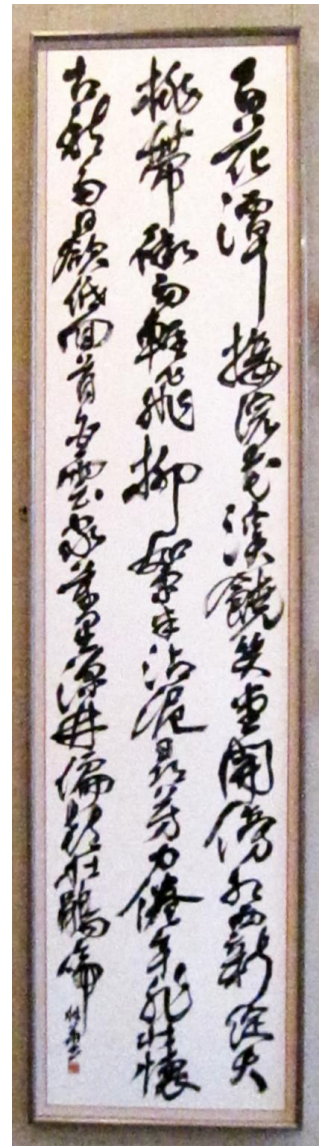
私は「滋賀県教育委員会教育長賞」を頂きました。昨年は「優秀賞」を頂いていました。二年連続で賞を頂くのは珍しいそうです。今回の賞は小学生では一番良い賞だと知った時は、とても嬉しかったです。

私は「鳥歌花舞」という文字を書きました。この文字を選んだ理由は「鳥」と「花」を昨年書いていたことと、「舞」という字にとでもひかれたからです。書く時には、「舞」の足の部分を長くすることに気をつけました。

賞を頂いた時、私はもちろんのこと、家族や先生、祖父母もとても喜んでくれたので、お習字を習ってきて本当に良かったなあと思いました。これからもお習字を続けていきたいと思っています。この賞を頂いたことに誇りをもち、がんばっていきたいと思います。

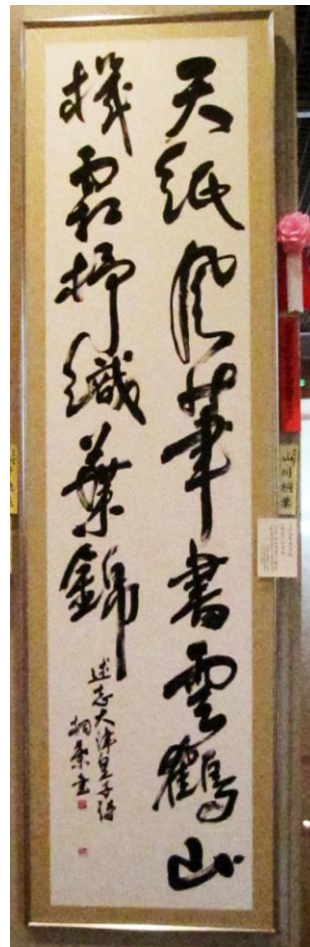
◆滋賀県芸術文化祭奨励賞を頂いて
守山駅前教室 野田唯花

この度はこのような大きな賞を頂き本当にありがとうございます。何を書こうかと迷っている時、ふっと目に入ったのがこの「河南山易之義」でした。隷書を書くのは初めてで、思っていたよりも難しく感じました。今年を受験のため塾が多かったりと、たくさん練習することができませんでした。そんな中このような賞を頂くことができましたのは、普段から指導してくださる先生や、錬成会でアドバイスをくださった先生たちのおかげです。本当に感謝しています。この経験を生かして、これからも努力していきたいと思っています。



玉木桂華→

山川桐葉 ↓



◆滋賀県芸術文化奨励賞を受賞して

守山駅前教室 玉木桂華

今回の作品は自分が今持っている力を存分に紙にぶつけようと思つて書きました。自分で選文、構成を作るとは難しいですが面白くもあります。上から流れる様な自然な流れの中に字形の変化、語群構成を工夫しながら作りました。

また錬成会の際に中川先生から墨ののせ方についてアドバイス頂いた時にはハツとしました。字の形にとらわれ過ぎていたので自分が忘れかけていた墨の潤濁を思い切つて入れる事が出来ました。まだまだ勉強出来ていない事が多いので今回戴いた賞を励みに今後も時間を大切に書き続けていきたいと思ひます。

書道展に携わつて下さつた皆様に感謝致します。ありがとうございます。

◆大津市教育委員会教育長賞

守山駅前教室 山川桐葉

私にとって七度目の混陽書道展。今年は一丈紙風筆書雲鶴：「大空に広げた紙に風のような筆勢で雲翔る鶴を描く」という壮大な詩文を、そのイメージのままのびのびと勢いよく書きたいと、この詩文を選びました。

六日間の作品展期間中には沢山の先生、先輩方から、お褒めの言葉や励ましの言葉をかけて頂き：半世紀の人生の中で今が一番努力が報われているなど実感できています。

これからも更に錬成し、楽しみながら作品制作が出来るよう頑張つて行こうと思ひます。

◆読売新聞大津支局長賞を頂いて

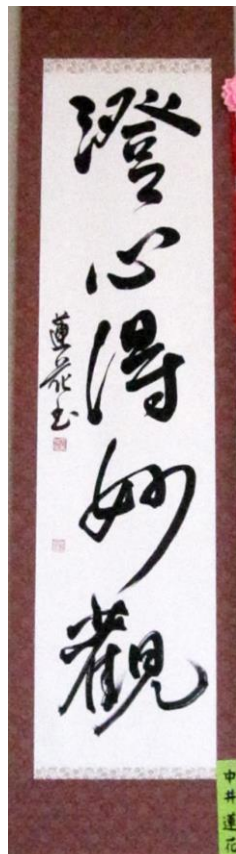
守山駅前教室 中井蓮花

今回このような賞を頂けた事に変驚き、とても嬉しく思っています。中川先生から電話を頂いた時には、思わず「うそ！」と言ってしまった。賞には縁のない私でしたから：

今回はゆつたりと大きな文字が書きたくて五文字を選びました。「澄心得妙観」字の形も意味も好きで、楽しみながら書くことができました。無心に書いている時間が好きなのと、日常生活から離れた教室での皆様との出会いが楽しくて、長々と続けさせて頂いております。

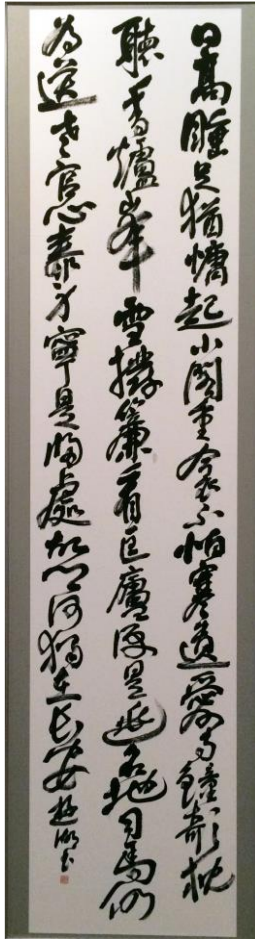
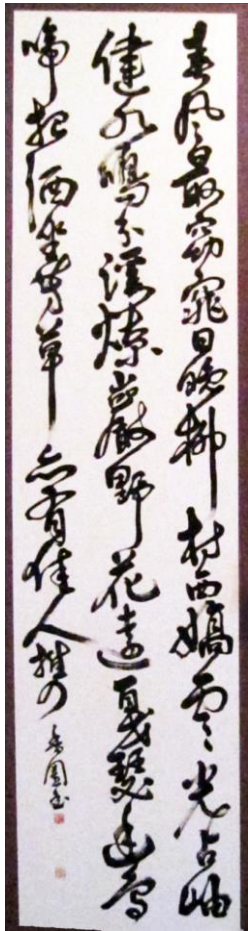
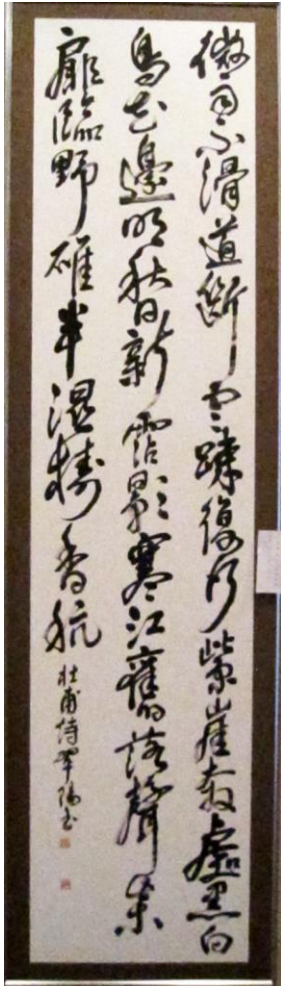
長年に渡りご指導を賜っている中川先生をはじめ、いつもお世話をして下さる混陽会の皆様から感謝しております。ありがとうございます。これからもよろしくお願い致します。

← 中井蓮花





右から
廣部遊湖
青山香園
山田翠陽



◆守山市長賞を受賞して
守山駅前教室 廣部遊湖
混陽会の作品展で、初めて大きな賞をいただき、ただただ嬉しく思っています。息子の一言で習い始めて十数年になる書。賞のこと伝えたら、『継続は力やね』と一言『おめでどう、習字もまた、自分と向き合わんとい作品にならないのと違う?』と。漫然と練習するのではなく、選文、墨の量、字の大小、線の太い細い、スピードいろいろなこと全て考えながら練習するのがこれからの課題だと思いました。最後に同じことを繰り返して見守ってくれた夫と、亡き母に感謝します。ありがとうございます。

講評会の様子



◆近江八幡市長賞を受賞して

守山駅前教室 青山香園

この度は、このような賞を頂けて本当に嬉しく思い、また有難く感じております。
一昨年の夏、中川翠玲先生の門下に加えて頂き、半切サイズしか書いたことが無かった私に二尺×八尺の創作作品が書ける迄に御指導頂けた事を心から感謝しております。

今年、昨年の創作作品での課題を踏まえつつ、自分の作品なんだから自由に楽しんで書いてみよう。と思い紙面に向かいました。中川先生に「生き生きした線が書ける様になったね」と言ってもらって頂き、字に如実に気持ち表れる事を痛感しました。新たな課題は多々ありますが、これからも楽しむ心を忘れず書に向かいたいと思います。

◆近江八幡教育委員会賞

守山駅前教室 山田翠陽

この度、近江八幡教育委員会賞を受賞させていただきました。驚きと感謝の気持ちで一杯です。

“たて線”をテーマに取り組みました。課題にしないといけないくらい、縦線をひくことができず大変でした。直ぐに上手くなるわけでもありませんが、少しもひけるようになったという感じもありません。まだまだ終わりをむかえましたが、これからも諦めず少しでも向上出来るようにがんばってまいります。

中川先生をはじめ、アドバイスをしてくださる諸先生方、いつも励ましてくださる仲間の皆さん、迷惑をかけている家族に感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございます。

第 37 回 混陽書道展 受賞者一覧

◆滋賀県知事賞

宮崎恵舟 宮本萌生

◆滋賀県教育委員会教育長賞

木村香雪 中村桃花

◆滋賀県芸術文化祭奨励賞

玉木桂華 野田唯花

◆大津市長賞

山本華泉 立川由華

◆大津市教育委員会教育長賞

山川桐葉 山口佳悟

◆守山市長賞

廣部遊湖 長谷川啓秀

◆守山市教育委員会教育長賞

寺井妙香 三宅陽由

◆近江八幡市長賞

青山香園 桑原百花

◆近江八幡市教育長賞

山田翠陽 深見花菜

◆日本習字教育財団理事長賞

堀部圭峰 松本玲子 西村翠洋

◆読売新聞大津支局長賞

梶原遼太 藤田紗帆

◆読売新聞大津支局長賞

中井蓮花 乾 碧洋 島崎寿映

◆BBCびわ湖放送賞

薬師寺桂舟 東 璃苑 足立花音

◆吳竹賞

瀬口幸代 中川雪瑤 松浦志歩

◆墨運堂賞

橋本翠遊 若江みずき 乾 未侑

◆奨励賞

杉江純一郎 田中那哉 藤井亜利紗
木村遼蒼 立藤咲南 深尾ひかる
岡 愛梨 蘭田彩菜

◆優秀賞

上田華暖 中嶋優風 八幡晃太郎 小山恵市朗

村田琉維 村井優斗 松岡慧伍 前田祐香

尾本莉彩 中山真尋

◆努力賞

岡田佑衣 立川彩華 美濃幸穂 山本知佳

吉田汐風 西山千柊 川島莉乃 神戸愛恵

竹中柚葉 榎本結香

おめでとーいございます！



山本華泉先生の生徒さんで、滋賀県立精神医療センター（地域生活支援部）デイ・ケアの方々から、作品展見学の感想をいただいております。いくつかご紹介させていただきます。

◎書道の作品を観る目的で美術館に来るのは初めてだったので、良い体験が出来たと思います。デイ・ケアでの書道に参加したのは未だ一回なのですが、以前より、字を上手く書けるようになりたいと思っていたので、これを貴重な機会と考え、これから書道のプログラムに参加したいと思えます。

◎作品がみんな力強く感じました。小学生の作品とかも上手く書いていて大人が書いたような感じがしました。自分も学生の時に習字をしたぐらいなので、まずは小さいものから、大きなものまで書きたいと思いました。

◎小中学生の字が力強く印象深かったです。同じ字を書く時には書体が違う様になると説明を受けて初めて知りました。「懂」という字が人によって様々なのとても面白かったです。

教養講座

教養講座 6

書道史前半 講師…井狩遊雪先生

書道史を担当させていただいております井狩です。日本習字から出ている中国書道史を皆で回し読みして進めております。時代時代の特色を再確認し、代表的な古典の作品を何文字かではあります。各自の資料として残してもらっております。

未熟な年表ではありますが自分でまとめた年表を使い、書体の変遷も理解できたらと力を入れております。

次回の作品展での全臨にも時代と成り立ちを感じながら臨書に取り組んで頂けたら有り難いと思っております。



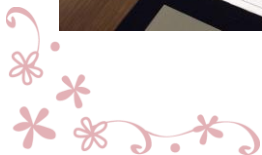
教養講座 7

篆書の基本と篆書の般若心経

十月三十日に山本青玲先生に教えて頂いたのは、篆書の基本と、去年先生が作品展に出品されていた般若心経の書き方です。

今回は、篆書の小篆を習いました。特徴は、横線は右上がりを書かないでま横にひく。始筆の筆先を内にくるんで、鋒先を外に表さないこと。筆先は線を中心を通る。太さを均一に。曲がり角を作らないこと。

実際に練習を始めると、普段の書き方とは違うので、線を一本書くだけでも、本当に気の抜けない作業です。篆書に適した筆の説明を受け、持参した筆の中で一番適した筆を探し出し、また、最初は記号のように見えていた篆書の字も、実際に練習して何の字を書いているか分かってくると、少しずつ上達してきて面白くなってきました。限られた時間の中で本当に少ししか触れることが出来ませんでした。篆書に触れる良い機会になりました。



定期講座

◆調和体講座

守山駅前教室 河野翠風

前回の講座では、岡田先生より来年度講座展の作品を一人ずつ前の黒板に張り、添削いただきました。立ち姿で作品を見ると全体が見えてきます。上下左右のバランス・余白の取り方・落款の大きさや位置等、細部にわたりご指導いただきました。作品は、日頃眺めて今度はこちらを注意して書こうと、色々考える事が必要との事です。同じ作品でも「墨の潤滑・濃度・色」「紙の質・大きさ」「筆の太さ・毛質」を変えて書いてみる。さらに、運筆のスピードや打ち込みが必要。

私は日頃、大きめの筆で、たつぷりの墨をつけて書いてしまうので、小さめの筆で、墨が少なくなれば、ゆっくりと書き込むことが中々習得出来ず苦戦しています。まだまだ書込み不足です。講座作品展に向けて、少しでも良くなる様に頑張ります。



◆古典講座

守山駅前教室 改発蒼風

今年の古典講座では、『集字聖教序』を学んでいます。私は毎回、持ち方に悩まされながら、先生に持ち方を修正していただき、修正していただいた持ち方のままキープして書こうと必死で筆を握っていました。しかし今回、池田先生から、書いている字や、書く人によってベストな持ち方は違うと教えていただきました。また、持ち方や書き方に自信がないまま書き進めていくことへの不安も、分からないなりに書いていけば、上達の早い遅いはあっても、確実に上達していくとおっしゃってくださいました。

いよいよ講座発表会が近づいてきました。やはりこれからも持ち方や様々な悩みと向き合いながら制作を頑張っていきたいと思えます。



◆まほろば講座 守山教室 田中遊峰
 今年度から井狩遊雪先生のご指導で、守山駅前教室において「まほろば講座」が開かれています。参加は九名で、楷・行・草三体の臨書や半切、古筆、調和体などの基礎を中心に楽しく学んでいます。限られた時間の中で身に付くところまでは至りませんが、書の基本中の基本と言われるところをしつかりと学び、これからの作品づくりを活かせるようにしたいというのが受講生の想いです。みんなで頑張りましょう。



◆古筆講座 さんさん守山教室 下村莊香
 十月の講座は来春早々に決定した講座発表会の作品、『元永本古今和歌集』と、『高野切第一種』の添削を属先生にお願い致しました。今回に添削をしていただいて、十二月の講座で選別していただき、色紙仕立に出します。各自で額に入れて出品することになります。これからの二カ月間にどれだけ努力をするかが、作品の出来です…が？
 私事になりますが、古筆で属先生にお世話になって二十年近くなります。(年数を明かすのはすこし気恥ずかしいですが)毎回同じ指摘を受けています。仮名に直線はないということ。S字カーブを肝に銘じて…もう少し頑張りようと思っています。



全日本小学生・中学生書道紙上展 ベスト 100

■蒲生花園教室 中三年 梶原彩香

読売紙上書道滋賀展

◎大萱教室

佳作 小二年 中間信志

小三年 杉江純一郎

小四年 山本 凜

中一年 久木野友莉

中二年 山本 悠

◎文英学院教室

佳作 小一年 谷川友埜

小二年 森田琉衣

小三年 種田ゆら

小六年 狩野優月

◎城北教室

二席 中三年 軸原伊織

◎立田教室

三席 小二年 川端花音

佳作 小五年 中島百葉

◎西今教室

佳作 小三年 北村綾音

中一年 木俣左京

◎蒲生花園教室

三席 中三年 藤田紗帆

佳作 小二年 谷美優

小四年 前田憲昇

小五年 川島莉乃

小六年 湯口晃多

中一年 高倉志帆

おめでとうございます！



次回作品募る 来年九月締め切り

「読売紙上書道滋賀展」の次回作品締め切りは二〇一七年九月十日。

応募要項は次の通り。

▽資 格 県内在住か通学の小学、中学生

▽作品規定 毛筆で半紙に縦書き、八字以内。書体と題材は自由。

▽出品方法 作品に学年と氏名(作品とつり合わない場合は名前だけでも)を入れるほか、必ず氏名、学校名、四月からの学年、住所(番

地まで明記)、電話番号を書いた出品票(様式は自由)を、作品左下にのり付けして下さい。一人一点。

▽送り先 〒五二〇・〇八〇六

大津市打出浜一三の一、読売新聞大津支局

「読売紙上書道滋賀展」係。

▽表 彰 小学校低学年、同高学年、中学校の各部門ごとに一席一点、二席二点、三席三席の計十八点を選び、本社から賞状と記念品を贈ります。このほか佳作を選び、氏名を紙面に掲載します。

(読売新聞より抜粋)

■編集後記■

いよいよ十二月になり、機関紙に作品展の感想や写真が載ると、毎年、「もう一年もおわりなんだなあ」と思います。作品展では、毎年たくさんの方々の作品に触れ、創作意欲をいただきます。来年はこんな作品を書きたい！いつかこんな風に書ける様になりたいなど、様々な思いを、これからの作品づくりに活かしていきたいです。(MK)

教室紹介

講師：富田蒼月先生



蒲生花園教室を紹介させていただきます。蒲生花園教室は東近江市、旧蒲生町のお花屋さんの二階にあります。中川会長がここで書道教室を開講され、その後何名かの先生方が引き継いでこられた歴史ある教室です。若い子の間でアムラーが流行し、私も右に習えとそれに憧れてた頃、縁あって蒲生花園教室で初めて講師につかさせていただきました。あれから十八年。憧れてた安室奈美恵さんは今も若々しくて綺麗ですが、私は年相応に年を重ねてしまいました。笑ここに通ってくれている生徒さんたちは、自分が納得するまで練習を積むとても熱心な子が多いです。他の教室に比べると男の子が多いのも特徴かもしれません。小中学生の生徒さんの内、半数以上が男の子です。教室の雰囲気は和気あいあいとしていて、書道の話、それ以外の話に花を咲かせたり咲かせすぎたりと、笑い声が飛んでいる教室です。また中学・高校に進学されても教室に通ってくれている子も多いです。

書道を通じて出会った生徒さん達に、書の上達はもちろんの事、一つの習い事を長く続けている事の素晴らしさ、それが生徒さん達の今後の自信や財産に繋がっている事に、指導者として努力していきたいと思っております。



◆今後の予定◆

- 2016年
- 12/4 (日) 教養講座⑩(中国書道史：後半)
- 12/9～11 (金～日) 飛燕展
- 12/11 (日) 調和体講座
- 12/17 (土) まほろば講座
- 12/18 (日) 古筆講座
- 2017年
- 1/16～22 (月～日) 講座発表会
- 1/22 (日) 総会、奏楽展実行委員会
- 4/23 (日) 奏楽展錬成会、及び作品提出日

講座発表会の案内

(古典・古筆・調和体講座)

場所：守山駅前総合案内所
日時：平成 29 年 1 月 16 日(月)から
22 日(日)正午まで

